

授 業 時 間 割 6 年

平成16年6月21日～8月6日

月	日	月				日	火				日	水				日	木				日	金			
		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4
		8:50 }	10:30 }	13:00 }	14:40 }		8:50 }	10:30 }	13:00 }	14:40 }		8:50 }	10:30 }	13:00 }	14:40 }		8:50 }	10:30 }	13:00 }	14:40 }		8:50 }	10:30 }	13:00 }	14:40 }
		10:20	12:00	14:30	16:10			10:20	12:00	14:30	16:10			10:20	12:00	14:30	16:10			10:20	12:00	14:30	16:10		
4	5	全科ローテーション臨床実習				6	全科ローテーション臨床実習				7	全科ローテーション臨床実習				8	全科ローテーション臨床実習				9	全科ローテーション臨床実習			
	12	全科ローテーション臨床実習				13	全科ローテーション臨床実習				14	全科ローテーション臨床実習				15	全科ローテーション臨床実習				16				
	19	全科ローテーション臨床実習				20	全科ローテーション臨床実習				21	全科ローテーション臨床実習				22	全科ローテーション臨床実習				23				
	26	全科ローテーション臨床実習				27	全科ローテーション臨床実習				28	全科ローテーション臨床実習				29	みどりの日				30				
5	3	憲法記念日				4	国民の休日				5	こどもの日				6	全科ローテーション臨床実習				7				
	10	全科ローテーション臨床実習				11	全科ローテーション臨床実習				12	全科ローテーション臨床実習				13									
	17	全科ローテーション臨床実習				18	全科ローテーション臨床実習				19	全科ローテーション臨床実習				20									
	24	全科ローテーション臨床実習				25	全科ローテーション臨床実習				26	全科ローテーション臨床実習				27									
6	31	開学記念日休業				1					2					3					4				
	7	全科ローテーション臨床実習				8					9					10					11				
	14					15					16					17					18				
	21	高次臨床実習(必修選択)				22	高次臨床実習(必修選択)				23	高次臨床実習(必修選択)				24	高次臨床実習(必修選択)		医と社会		25				
28	内科					26																			
7	5	高次臨床実習(必修選択)				6	高次臨床実習(必修選択)				7	高次臨床実習(必修選択)				8	高次臨床実習(必修選択)		内科		9				
	12	高次臨床実習(必修選択)				13	高次臨床実習(必修選択)				14	高次臨床実習(必修選択)				15			内科		16				
	19	海の日				20					21					22			23						
	26	高次臨床実習(必修選択)				27					28					29	内科 最終総括		30						
8	2	最終総括講義				3	最終総括講義				4	最終総括講義				5	最終総括講義				6	最終総括講義			
	9	夏季休業				10	夏季休業				11	夏季休業				12	夏季休業				13	夏季休業			
	16					17					18					19					20				
	23					24					25					26					27				
	30					31					1					2					3				
9	6	夏季休業				7	夏季休業				8	夏季休業				9	夏季休業				10				
	13					14					15					16					17				
	20					敬老の日					21										22				
10	27	卒業試験期間				28	卒業試験期間				29	卒業試験期間				30	卒業試験期間				1				
	4	卒業試験期間				5	卒業試験期間				6	卒業試験期間				7	卒業試験期間				8				
	11	体育の日				12	卒業試験期間				13	卒業試験期間				14	卒業試験期間				15				
	18	試験期間				19	卒業試験期間				20	卒業試験期間				21	卒業試験期間				22				
	25					25					27					28					29				
11	1					2					3	文化の日				4					5				

内科総括講義

責任者 江口勝美
内科学第一（免疫内分泌代謝病態制御学）
内線：2800 E-mail: eguchi@net.

1. 教育目標・方針

4年生：疾病（病態を含めて）から確定診断するのに至る経緯を中心として講義をし、5年生から始まる病室実習に備える。さらに、疾患の病因を含め基礎知識から最新の治療まで教育する。

5年生・6年生：疾患の病因・病態を含め基礎知識から最新の知識まで教育する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義主体（スライド、プリント、ビデオなど使用）

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
内科学実習のための主訴よりみた内科疾患の診断	原耕平、長瀧重信 監修	医薬ジャーナル	4,800 円
図説病態内科学講座 消化管 - 2	藤野雅之 他	メディカルビュー	20,600 円

4. 評価法

卒業試験に含める。

5. 教官名

第一内科：江口勝美

第二内科：河野 茂

第三内科：矢野捷介

原研内科：朝長万左男

熱研内科：永武 毅

内科総括講義予定（6年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教官	教室
7	15	木	3	血液	悪性リンパ腫の臨床	原内（朝長）	臨2
			4	リウマチ・膠原病	関節リウマチの病態と治療	内科1(江口)	
7	22	木	3	呼吸器	いま話題の呼吸器感染症	内科2(河野)	臨2
			4	感染症	感染症の発症メカニズムと予防	熱内（永武）	
7	29	木	3	循環器	不整脈	内科3（矢野）	臨2

医 と 社 会

責任者 高 橋 晴 雄
耳鼻咽喉科学（耳鼻咽喉病態制御学）
内線：3023 E-mail：htak0831@net.

1．教育目標・方針

6年次にあってはよいよ医師となる直前であり、特にコア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。

臨床の現場では、医療事故を如何に防止するかについて安全管理に関する心構えを身に付けかつ倫理面を住した上での医事法制を学ぶ。

2．授業内容（講義・実習項目）

医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。また薬剤投与に関する医療事故も多く、薬剤面からのリスクマネジメントについても理解する。また医師にとって重要である医事法制について法律の専門家による医師にとって必要な法的側面及び倫理観、宗教観からみた死生学について講義する。

3．教科書、参考書等

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

4．評価法

レポート、出欠状況及び授業を行った教官の評価結果を総合して決定する。

5．教官名

法医学：中園一郎

医療情報部：本多正幸

薬剤部：佐々木 均

非常勤：浅野直人（福岡大学法学部長）

非常勤：早島 理（滋賀医科大学、哲学倫理学）

非常勤：向原茂明（国立病院長崎医療センター）

医と社会授業予定（6年前期）

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教官	教室
6	24	木	3	医療リスクマネジメント	非常勤：向原	第1
			4	薬剤リスクマネジメント	薬剤部：佐々木	第1
7	1	木	3	医療情報におけるITと安全管理	医療情報部：本多	第1
			4	死生学	非常勤：早島	第1
7	8	木	3	医事法制	非常勤：浅野	第1
			4	まとめ	法医学：中園	第1

最終臨床総括講義

オーガナイザー：矢野捷介
内科学第三（循環病態制御内科学）
内線：2840,2843 E-mail:mikan@net.

1. 教育目標・方針

6年間の医学部教育の総まとめとして、臨床各科の教授による総括講義を行う。講義は、次頁に示すように多岐にわたる内容・ねらいで構成されるが、卒業を目前にした諸君が習得しておくべき臨床医学を重点的に総括するものである。また、卒業後の医師、医学者としてのあり方など、諸君がこれから歩む人生に多くの示唆を提供するものである。

2. 講義題目、内容・ねらい、担当教官

講義題目	内容・ねらい	担当教官・所属
書かれた医学は過去の医学であり、目前に悩む患者の中に未来の医学の教科書の中身がある。	医学部6年間の学生教育は、生涯教育の出发点であり、卒後も医師は日進月歩の医学を生涯に亘って学んでいかなければなりません。日常の臨床において、医師の仕事は人の魂と交わることであり、患者さんの人間的な苦しみを栄養として知識を増やし、経験を積み、技術を磨いていくのです。 また、悩める患者さんを前にして、患者さんの苦痛を少しでも緩わげるにはどうしたら良いのか、常に疑問を持ち、思考し、真理を貪欲に探究するResearch Mindを持った臨床家を目指してもらいたい。	江口勝美 内科学第一 (免疫内分泌代謝病態制御学)
内科医として目指すもの	内科は臨床医学のアートである。問診と診察によって、疾患を絞り込み、必要な検査によって確定診断を行う。この過程は、目的地に向かうのにどの道を通り、どの交通手段で行くか、というナビゲーションに喩えることができる。近道があるかもしれないし、迷ってしまうかもしれない。地図があれば、目的地にたどり着けるだろう。地図は「知識」である。「経験」は近道を選び、険しい道を避ける助けになる。ときには道のない部分もあるだろうが、その道を造るのが「技術」である。そうして、「目的地」=「診断」にたどり着いたら、evidenceを集めて、治療を行う。医学部6年間で学んだ知識を用いて、地図を読むことができるようになった。諸君はこれから「経験」や「技術」を身につけて行くのである。しかし、そのような修練を積みながらも、決して患者への尊敬を忘れてはならない。	河野 茂 内科学第二 (呼吸器病態制御学)

講義題目	内容・ねらい	担当教官・所属
21世紀の医学・医療に求められるもの	<p>目覚ましい進歩を遂げた20世紀の医学・医療は、21世紀にもさらに進歩し変化していくことが予想される。医学の分野では分子生物学の知識や技術がさらに進み、医療も高度化、専門化、複雑化がさらに進んで、その在り方や形態も大きく変わっていくことが予想される。今後も医師が医療の主役であることに変わりはないが、医療に関わる他の職種の人たちとの緊密な連携がますます重要になり、患者の権利と自己決定に充分配慮した医療が要求される。また、超高齢社会の到来を背景にして治療、予防および福祉を包括した医療が必要になっていく。</p> <p>諸君はこれらのことをよく認識して、人間性豊かな医師あるいは医学者としての研鑽を積んでいって欲しい。</p>	<p>矢野捷介 内科学第三 (循環病態制御内科学)</p>
Partnership for Mental Health	<p>major psychoses を中心的なテーマとしてきた精神医学は、近年大きく変貌しつつある。major psychoses だけでなく、精神障害の全般にわたって、心理社会的側面と分子生物学的側面の研究が両論となってバランス良く走り出している。さらに、そうした研究及び診療に関わる当事者への倫理的配慮の重要性も大きく認識されてきている。生涯のうちで精神疾患に苦悩する人は100人に20人はいると見なされる。そうしたことにならないためにはどうするか、そのような状態になった人を如何にサポートするか、考えてみよう。</p>	<p>小澤寛樹 精神神経学 (精神病態制御学)</p>
広く、深く、暖かく	<p>人生の中で、小児期ほど目紛しい変化を遂げる時期は有りません。その中で起こる全ての健康上の問題に立ち向かうのが、小児科医の役割です。またどの診療科に進んでも、プライマリーケアを行う上で小児を診ることができる事は不可欠です。その為には広い目で小児患者を診、深く疾患病態を見極め、暖かくこどもに接する事が求められます。各論講義や実習を通じて学んだ知識や技術を総括し、これからの小児科学ならびに小児の医療について考えてもらう場にしたいと思います。</p>	<p>森内浩幸 小児科学 (小児病態制御学)</p>

講義題目	内容・ねらい	担当教官・所属
これからの外科の目指すもの	21世紀の外科治療はこれまで画一的に行われてきた標準手術や機能温存を犠牲にした拡大手術などが見直され、内視鏡下手術を中心とする新しいデバイスを用いた低侵襲・機能温存手術やEBMに基づいた術式選択や補助療法を導入し、より個別化した集学的医療へと変遷しつつある。その一方で臓器移植や再生医学の導入などの臓器機能再建の分野としての外科の役割も重要となっている。この講義ではこれからの外科学の魅力とその展望を中心に話したい。	永安 武 外科学第一 (腫瘍外科学)
こんなときどうする - 外科医の役割 -	一般外科は救急から慢性疾患、癌の治療から臓器移植といった幅広い治療学である。最終臨床総括講義では外科的疾患の種々の場面を想定し、一般外科医志望者は勿論、それ以外を志望する学生にもこのことは是非知っておいて欲しいことを講義する。	兼松隆之 外科学第二 (移植・消化器外科学)
新世紀の整形外科は？	新世紀の整形外科学は遺伝子医療や、組織再生医工学による体外培養組織の置換法が学術的研究の主役を担う。しかし、整形外科診療の前線においては益々増加する骨・関節の変性疾患に対し、より高いQOLを追求する介護(care)型医療の必要性が高まる。その概要を解説すると同時に、国家試験の傾向と対策についても解説する。	進藤裕幸 整形外科学 (構造病態整形外科学)
皮膚科医に今何が求められているか	地域医療の中で皮膚症状を主訴として来院する患者は多く、患者サイドから求められる要求度も高い。卒後教育の中で皮膚科医はメスの持てる内科医としての実力を身につけることが要求されていくと考えられるが、さらに皮膚の Rejuvenilizationによる皮膚の健康維持、高齢者の皮膚のケアを通じての全人的医療への参加も皮膚科医の果たすべき新しい役割となるであろう。本セミナーではこのような皮膚科学の流れを解説する。	皮膚科学 (皮膚病態学)
21世紀における泌尿器科学の展望	泌尿器科学は外科学の分野であり、取り扱う内容について十分に理解されていません。米国では泌尿器科医は専門医の中のSpecialistとして高く評価されています。高齢化社会への突入と共に、泌尿器科医の需要が高まっており、他科とのかかわりについて、さらに今後の展望についてお話したいと思います。	金武 洋 泌尿器科学 (腎泌尿器病態学)

講義題目	内容・ねらい	担当教官・所属
視覚科学の基礎研究と臨床のトピック	<p>ヒトが外界から得る情報の80%は視覚情報によっており、視力が失われたことを考えれば、失明は死に匹敵する悲劇である。この悲劇・視機能の低下、喪失を防ぐことは非常に重要で、やりがいのある分野である。この視覚科学において、日常臨床から得られるアイデアをもとにした、疾患の予防・治療のための研究は、「基礎研究のための基礎研究」とは違い魅力を秘めている。現在の眼科学における臨床に即した基礎研究と、そこから得られた臨床のトピックについて、当教室で得られた知見もまじえ、解説する。</p>	<p>北岡 隆 眼科学 (眼科・視覚科学)</p>
耳鼻咽喉科の医学と医療	<p>近年の医学知識の進歩は急速であり、常に新しい・正しい知識を理解・実践することが求められている。しかし、日常臨床の場での医療はあくまで人と人とのふれあいの中にあり、弱者である患者が中心であることを忘れてはならない。この医学と医療をうまく結び付けていくのが、我々の仕事である。最終講義として医療の実際についての我々の役割を議論したい。</p> <p>また最近の耳鼻咽喉科学の進歩についても触れる。</p>	<p>高橋晴雄 耳鼻咽喉科学 (耳鼻咽喉病態制御学)</p>
全身をみる医学：放射線医学	<p>放射線医学・医療は科学技術の進歩の結晶であり、現在の医学・医療の中心的存在として確固たる地位を築いている。最先端の医療機器と技術を駆使して、全身のあらゆる部位、あらゆる疾患の診断と治療にかかわってくる。放射線科医は最も多くの患者さんを把握していると言っても過言ではない。現在と将来における放射線医学・医療の果たす役割について考える。</p>	<p>放射線医学 (放射線診断治療学)</p>
中高年婦人のQOL	<p>女性の寿命が顕著に延びたために、多くの女性は中高年(更年期)と呼ばれる時期を経験することになる。更年期はホルモン環境が大きく変わる時期である。この更年期における身体の生理的・病的変化を理解しQOLを向上させるためには、どのような対応が必要かを理解させる。</p>	<p>石丸忠之 産婦人科学 (生殖病態生理学)</p>
麻酔科学における重要事項の整理と解説	<p>麻酔科学は麻酔管理、集中治療、ペインクリニックと広範にわたっている。これらの領域における基本的かつ重要な事項を中心に解説し麻酔科学の集大成として知識を整理する。さらに今後の発展の方向として、麻酔管理における侵襲防御、集中治療における多臓器障害の克服、ペインクリニックにおける慢性痛の克服などのトピックスを紹介する。</p>	<p>澄川耕二 麻酔学 (侵襲防御学)</p>

講義題目	内容・ねらい	担当教官・所属
脳神経外科の現状と将来展望	神経科学の発展と多彩な治療・診断機器の進歩をもとに脳神経外科学は急速な進歩を遂げた。現在は神経機能温存・回復を目的としたQOLを重視した治療へと進展しつつある。脳外科手術の現状と今後の展望について紹介する。	永田 泉 脳神経外科学 (神経病態制御学)
形態異常における形成外科の役割と今後の展望	形態異常は患者に大きな精神的苦痛を及ぼす。いかなる疾患においても、患者にとっての治癒とは精神的な満足を伴ってはじめて意味があるものとなる。このためにも、医師は形態の異常がどのようにして現われるか、形態における正常とは何かなどを知っておくべき必要がある。形態と機能の改善を目的とした形成外科の最近の進歩と限界について解説する。	平野明喜 形成外科学 (構造病態形成外科学)
心臓外科の現状と将来	心臓外科手術の適応と成績、問題点などの現状と導入されつつある新しい技術および将来について解説する。	江石清行 心臓血管外科学 (循環病態制御外科学)
臨床検査にとって不可欠な知識	臨床検査は、初期医療から高度先進医療まで客観的な医療の evidence を担う重要な分野である。最終講義では過去の国試問題を参考にし一般医に必要な臨床検査の不可欠な知識を解説する。	上平 憲 臨床検査医学 (病態解析・診断学)
医学と医療の将来展望 ー先端医療の動向ー	血液内科学からみた21世紀の医学研究、とくに細胞医療、再生医療、遺伝子医療の展開を予測する。臨床医を目指す人、研究者を志す人に対するメッセージ。	朝長万左男 原研内科 (分子治療学)
感染症総論	病原体の多様化、耐性菌の増加および宿主側要因の変貌は感染症治療を今日増々困難なものとしている。国際化社会にも対応出来る医師として最低限必要な感染症関連の知識と感染予防の重要性を認知させたい。	永武 毅 熱研内科

3. 講義日程

7月29日(木)～8月6日(金)に上記の21回の講義を行う。各講義の日・校時については、7月14日までに予定表を掲示するとともに、学生個人に配付する。

4. 評価法

講義内容を各科の卒業試験に含めることがある。